

動いた・動かない・動いた！
若葉台保育園（福島県いわき市）

0歳児

遊びを通して風の存在に気付いた事例（11月）

0歳児10名

子どもの姿	保育者の指導・支援
<p>①園庭で遊んでいる。</p> <p>②A児は保育者の持っている玩具に興味を示し、「やりたい！」と手を伸ばす。</p> <p>③保育者のまねをして、園庭を走ったりして遊ぶ。（2名）</p> <p>玩具のなびく部分がひらひらと風で動くと、「キャー」と大きな声を出し、喜んで保育者の後を追いかける。（3名）</p> <p>④B児は風がやみ、玩具が動かなくなると、「あー」と玩具を指差し、保育者に動かなくなったことを伝える。</p> <p>B児は動かなくなった玩具を振り回し、動かそうとする。</p>	<p>②「これ見ててね、行くよー」と保育者がやって見せる。（遊び方を子どもたちに教える。）</p> <p>③「上手だね」と誉め、子どもたちが意欲的に遊ぶことができるよう支援する。</p>
<p>⑤室内に入り、同じ玩具を使って遊ぶ。</p> <p>⑥B児C児は玩具のなびく部分が動かないと、手で触ったり振り回したりして、何とか動かそうとする。</p> <p>⑦D児E児は玩具のなびく部分が動かず、遊びをやめてしまう。</p> <p>⑧うちわの風で、玩具のなびく部分が動き、喜ぶ。</p> <p>⑨玩具が動かなくなると、「もっとやって」とうちわを保育者に渡し、催促する。</p> <p>⑩D児は玩具が動くとき手をたたいて喜ぶ。</p> <p>A児は保育者のうちわに興味を示し、保育者のまねをしてあおぐようとする。</p>	<p>⑤同じ玩具を子どもたちに渡し、自由に遊ばせる。</p> <p>⑧うちわであおぎ、風を起し玩具を動かす。</p> <p>「ひらひらしたね」とうちわであおいで、玩具が動いたことを子どもたちに確認する。</p>



<考察>

風でひらひらと動く玩具を使って、風の存在に気付くことができるよう実践を行った。風の強い日だったので、玩具はよく動いた。子どもたちは玩具の動きを十分に楽しむことができていたが、風で動いているということを理解するのはまだ難しかったようで、玩具が動かなくなると振り回したり、触ったりして動かそうとしていた。

室内でうちわを使って遊ぶと、玩具の動きがはっきりと分かりやすくなった。うちわであおげば玩具は動き、やめると動かなくなる。月齢の高い子はそのことに気付くことができた。（4人）それは、保育者がうちわであおぐのを止め玩具が動かなくなった時に、B児やC児が「もっとやって」というように保育者にうちわを差し出し催促した行動からも分かる。

園庭で遊んだときは風の存在に気付くことができなかつた子どもたちも、うちわを使って風を起すことで、その力を感じることができた。自然の中での遊びを通して、目に見えない自然の原理を子どもたちに体験させたり、理解させたりするためには、保育者がはっきりと変化や結果の見える条件や環境を意図的に作ることも大事である。

みどころ

0歳児でも物の動きに注目して、「動く」「動かない」ということを感じ取って、興味をもったり遊び心をもって物にかかわったりする様子が分かります。一度動かなくなったのに、再び動き出したことに、保育者のかかわりが関係あると感じ取っていることも伝わってきます。このように、興味をもって注目し、変化を感じ取れる遊具や環境は、0歳児の心を動かし、全身で感じ取って自分から物にかかわる動きを引き出します。